

1 学校教育目標	
○ 考える子 ○ 明るい子 ○ ねばり強い子	
2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像	
○学校像	○かけがえのない子どもたちのために、日々の教育活動に責任をもって取り組む学校 ○国・都・区の施策・動向を踏まえながら、当たり前のことを当たり前に行う学校 ○知・徳・体の調和のとれた児童の育成のために家庭・地域、近隣園・近隣校と連携・協働して共育し、共に育つ学校
○児童・生徒像	○考える子 …基本的な学習習慣の定着を図り、主体的な取組を通して基礎的・基本的な学習内容を習得するとともに、それを適切かつ積極的に活用することのできる児童 ○明るい子 …自他のよさや個性を認め、尊重するとともに、良心に基づいて行動し、互いに助け合うことのできる児童 ○ねばり強い子…自らの健康の増進と体力の向上について、目標を立て、達成のために努力する児童
○教師像	○進んで研鑽に励み、教師力を高めようとする教師 ○教育愛に満ち、児童・保護者・地域から信頼される教師 ○危機意識とスピード感をもって組織的に課題に対応できる教師
3 学校の現状及び前年度の成果と課題	
1 学校の現状	令和5年度は、1年1学級、2～6年2学級の全11学級の編成。令和4年度より1学級減となった。児童数は、H28年度420人からR5年度264人、昨年と比べ31名となり、ここ数年減少傾向にある。 ・大規模修繕が令和3～5年度で計画される。昨年度校庭の使用の制限が3ヶ月間あり、二極化、運動離れが生じた。体育的活動に工夫の必要がある。 ・担任、専科教員の学級・専科経営力を高め、児童の自己肯定感と学級への帰属意識を高める必要がある。(hyper-QU調査より) ・保護者及び地域は、学校に協力的である。コロナの感染状況が多少収束に向かっている中、地域の取組や行事が行われ始め、保護者・地域がどれほどまでに子供たちの健全育成に力を尽くしているのか、再認識できた。
2 成果と課題	○学力の定着・向上に関しては、区学力調査を基準にするとコロナ禍以前の水準まで上げることができた。校内研究、小中連携、区教育研究会による研究授業、そして日常の授業での授業改善を通し、学力を維持していくことが今後の課題となる。 ○「GIGAスクール構想」の実現により、児童の情報活用能力と指導者のICT活用能力が高まっている。Googleアプリを活用し、協働的な学びを実践している。 ○制限のある中ではあったが、保護者・地域の皆様に子供たちの活動する姿を見ていただく機会をできうる限り設けることができた。また、学校だより、保健・給食・図工だよりなどの各種だよりや配信メール、特にHPでの積極的な情報発信に努めた。また、ICTの環境が整ったことにより、各種案内や連絡をHPに掲載することで、ペーパーレス化を進めたり、学級と児童・家庭をGoogleアプリ「classroom」でつないだりすることもできた。保護者アンケートでは、「学校や児童の様子を参観したり、説明したりする機会を適切に設けている。」への肯定的な回答が90%をこえ、高い評価を得られたことがありがたい。(昨年比+15%)「校外学習時のメール配信、校長ブログ、学級通信を楽しみにしています。」「HPで給食の記事を見て、毎日の手作りに感謝です。」などの意見もいただいた。引き続き、開かれた学校を目指していきたい。 ・いじめ・いじわるの早期発見、早期解消を図ることができたものの、時間が経過すると、また新たな事案を発見するに至る。今後も、道徳教育を中心に日常的に人権教育を推進し、いじめ早期発見・解消100%を目指す。 ・体力・運動能力の低下が危惧される。コロナ禍以前の水準に近づけ、健康の増進を図る。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	体力・運動能力の向上と健康の増進	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン（学力の定着と向上）							
A 今年度の成果目標		達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題				達成度 ◎○△●	
児童が自身の向上を実感できる学力の定着と向上に向けた取組の充実		<ul style="list-style-type: none"> R5 区学力調査通過率 2・5・6年生は区平均並み。 3・4年生は区平均を上回る。 年度末の到達目標 単元テストの平均達成率 80%以上の児童の割合 80% 	<ul style="list-style-type: none"> 【区学力調査の通過率】 令和5年度 区学力調査通過率 2教科平均 87%（昨年比－2ポイント） 国調査(6年)2教科平均正答率 67.2（国平均＋2.3ポイント） 【単元末診断テストの平均達成率】80%以上の児童の割合 国語 78% 社会 79% 算数 77% 理科 74% 	<ul style="list-style-type: none"> 【区学力調査の国語・算数の通過率】 4月実施...国語科 87.4% 算数科 86.5% 国語は区平均＋3.7ポイント、算数は＋2.7ポイント。 学習の定着状況と具体的な取組は6（1）を参照。 国語は、物語文・説明文を読みとる力が課題となった。多くの文章に触れる機会を朝学習などで取り組んだ。 年度末確認調査(2月)...国語 78% 算数 81% 【単元テスト達成率 80%以上の児童の割合】 前年度に比べ、社会科と算数科の達成率が上がったが、目標には達しなかった。理科は、3ポイント下がった。知識・技能の定着、問題解決的な学習をさらに推進する。 				△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

継続	ICT の活用	全学年 全教科	授業	<p>【指導体制】 担任・学習支援員</p> <p>【取組の目的】 足立区 ICT 教育推進基本方針に基づいた、分かりやすい授業と情報を活用した学びを推進し、「発達段階に応じて求められる情報活用能力」を身に付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区の方針「情報活用能力」を基準に児童への調査（「キーボー島チャレンジ」校内基準の達成度） AI ドリル、ICT 活用状況の児童、教員への調査 	<ul style="list-style-type: none"> 「情報活用能力」のステップ 1～3 の能力に関わり学年に応じた習得 80% 「ICT を使うことで勉強が楽しく分かる」と回答する児童 90% AI ドリルの計画的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ステップ 1～3 に応じたスキル・モラルの習得 100% キーボー島タイピングスキル校内基準達成 89% 「ICT を使うことで勉強が楽しく分かる」と回答する児童 87% AI ドリルを日常的に活用するとともに、ワークブックを作成し、家庭学習としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「キーボー島チャレンジ」でタイピングスキルを向上させることができた。学年に応じた基準を設定し、6 年生は 96% の児童が達成した。 各教室では、ジャムボード、スライドを積極的に活用し、児童相互の交流活動に活用し、学習活動を活性化させている。 	◎
継続	かけ算九九チャレンジ	第 2 学年 及び未習得児童 算数	11 月以降 年度 未まで	<p>【指導体制】担任・校長</p> <p>【取組の目的】 かけ算九九の完全習得</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校長と担任の聞き取り 	<ul style="list-style-type: none"> 3 月までに全員合格 	<ul style="list-style-type: none"> 86% 合格。5 名の児童については、一段ずつの合格を目指し、完全習得を目指しているところである。 	<ul style="list-style-type: none"> 3 年生でも継続してチャレンジし、4 月中の習得を目指す。 	△
継続	流暢な読みの定着	第 1 学年 国語	授業 間 放課後	<p>【指導体制】担任・校長</p> <p>【取組の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> MIM-PM の実施 授業の中で特殊音節を指導し、定着を徹底する。 「音読チャレンジ」 語のまとまりや言葉の響きを重点にした音読。 	<ul style="list-style-type: none"> MIM-PM での 3rd ステージの児童の割合 音読チャレンジの成果 	<ul style="list-style-type: none"> MIM-PM での 3rd ステージの児童 10% 以下 音読チャレンジ全員達成 	<ul style="list-style-type: none"> MIM-PM での 3rd ステージの児童 9% 2nd ステージ 9% 音読チャレンジ 82% 合格 	<ul style="list-style-type: none"> MIM-PM、音読の力を定着させたい 4 名の児童には、今後も家庭と連携し、個別に指導を継続する。 	△

継続	授業改善による学習内容の確実な定着と考える力・表現する力の育成(主体的・対話的な学習の充実)	全児童 国語 社会 算数 理科	授業	<p>【指導体制】 担任・算数習熟度別担当 学習支援員</p> <p>【取組の目的】 学習のまとめや振り返りを児童の言葉で行う。算数は、授業の終末に適用問題を行い、学習内容の定着を図る。 授業における記録・説明・批評・論述・対話・討論等の言語活動の工夫、及びICTの積極的な活用を通して、主体的・対話的な学習を通して、考える力・表現する力を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区調査「主体的に取り組む態度」及び都調査(4～6年)「学習の進め方」に関わる児童の取組状況 区調査再調査通過率 単元テスト観点「思考・判断・表現」の達成率 	<ul style="list-style-type: none"> 区及び都調査の項目における児童の肯定的な取組 前年度アップ 区調査再調査通過率年度当初比5%向上。 単元テストの社会・算数・理科の観点「思考・判断・表現」80%以上の児童の割合80% 	<ul style="list-style-type: none"> 区調査「主体的に取り組む態度」平均76%(前年度比+2%) 都調査(4～6年)「学習の進め方」への積極的な態度が身に付いていると回答した児童74%(前年比+2)「分からないことは、すぐに調べる」が54%、課題である。 区学力調査1月再実施の通過率4月比+1.8%。(1月実施31/63名通過) 単元末診断テスト達成した児童の割合「思考・判断・表現」社会77%算数73%理科70% 	<ul style="list-style-type: none"> 都調査では、「考えたことを積極的に相手に伝える」は、前年度より改善されたが、56%(+6)にとどまった。授業観察や校内研(国語)では、自らの考えをもち、友達と交流することについて研修し、研究の日常化を進めている。今後も、自分の考えを発表する際、ICTを効果的に活用したり、学習形態を工夫したりして、考える力・表現する力の育成を図る。 算数科における「思考力・判断力・表現力」の育成のために「足立スタンダード」にのっとった学習活動を進める。他教科でも児童自身が自分の言葉で毎時のまとめを行うようにする。 	△
継続	基礎的・基本的な知識・技能の定着	全児童 国語 社会 算数 理科	授業 補充的な取組	<p>【指導体制】 担任・算数習熟度別担当</p> <p>【取組の目的】 既習内容のつまずきの克服と基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストでの学習内容定着の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 国・社・算・理とも平均到達度80%以上の児童の割合80% 	<ul style="list-style-type: none"> 単元末診断テスト平均到達率80%に達した児童の割合 国語78%社会79%算数77%理科74% 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度、基礎的・基本的な学習内容の定着を徹底させるため、週4回放課後のパワーアップタイムで個に応じた指導を行う。 	△

継続	中学校につながる確かな英語力の育成	第5、6学年児童英語	授業	【指導体制】 担任・担当・アドバイザー 【取組の目的】 中学校に向けて4技能をバランスよく確実に育む授業と個別支援の充実	・まとめの到達度診断テスト (10月、2月) ・区調査問題を活用した定着度確認 (2月実施)	・まとめの到達度診断テストで達成率80%の児童85% ・区調査(2月)通過率85%	・まとめの到達度診断テストで達成率6年生は、80%の児童97% ・区調査(2月)通過率83%	・区調査目標値を通過できなかった10名の児童に対して、校長英語面接を実施し、意欲付けを行った。	○
----	-------------------	------------	----	---	---	--	---	---	---

重点的な取組事項－2	豊かな心の育成
-------------------	---------

A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全ての児童の明るい学校生活の実現		<ul style="list-style-type: none"> 「学校(学級)は楽しい」「友達と仲よく協力し合っている」と感じている児童90% 目標実現に向けた取組み①～③の達成基準 	<ul style="list-style-type: none"> 学校(学級)は楽しい92% 友達と仲よく協力し合っている児童95% 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者回答「児童は、仲よく楽しく学校生活を送っている」は94%。保護者もそう感じていることがありがたい。全員が充実した学校生活と思えるよう今後も努めていく。 「友達の気持ちを考えることができる」という良好な人間関係への回答も89%である。 	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

<p>① いじめ・不登校の防止と早期解決</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・いじわる事案の年度内の解消。児童の悩みの相談相手が先生と回答 70% ・「心の教育」への取組に関する保護者の肯定的な評価 90% ・「WEBQU」調査 学校生活不満足群に属する児童の割合 20%以下 	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童とともに」の徹底、「いじめ防止基本方針」に基づいた児童の自主的な取組の推進、「いじめ防止・SOSの出し方教室」の完全実施 ・豊かな人間関係づくりを目指した児童同士のよさを見付ける機会と場の設定 ・「いじめ対策プロジェクト」による学校・家庭・地域とのネットワーク強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の悩みの相談相手が先生と回答 67% (家の人 90%) ・「心の教育」への取組に関する保護者の肯定的な評価 93% ・4月から3月までのいじめの認知 16件、内5件解決たかかれた、蹴られた、悪口を言われたなど1回のことであっても件数に計上し、その解決に向かって指導を続ける。 ・「WEBQU」調査 学校生活不満足群に属する児童の割合 11% ・「いじめ対策プロジェクト」の地域担当者と管理職で個別に2回情報共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業間も教員は、教室や校庭で児童と共にある。悩みを訴えた児童のうちほぼ全員が担任へ相談している。 ・「大人と子供の道徳講座」(道徳授業地区公開講座)では、子供からの問い「いじめや差別をなくすためにはどうしたらよいのだろうか」、「人を傷つけないうそならついてよいのだろうか」、「友達との関わり方」などについて地域の方にお話いただいた。今後も左記プロジェクトと連携し、保護者・地域といじめや差別、人との関わり方について考えていきたい。 	<p>◎</p>
<p>② 自己肯定感の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感、自己有用感に関する児童の肯定的な評価 90% ・体験的な学びの取組への保護者の肯定的な評価 85% 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感が高まる機会や場の設定 体験的な学びの機会 (学年で年2回以上)、学校 2020 レガシーの推進、近隣幼稚園・保育園・福祉施設との交流など 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感、自己有用感に関する児童の肯定的な評価 79% (前年比+2ポイント) ・「体験的な学び」は、各学年2回以上実施した。その取組に関する保護者の肯定的な評価は 89%であった。1年生と幼保との連携では、園児に小学校生活への期待を抱かせる交流となった。 ・「人の役に立ちたい」と考えている児童は 89%。能登地方の震災を受け、代表委員会は募金活動を新たに提案した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感、自己有用感を高めるために今後も自らの頑張りや成長を自己評価し、みんなのために活動する喜びを味わわせる機会を設定する。 ・隣接する高齢者施設への交流訪問が実現した。児童は、合奏・合唱を披露するとともに思いのこもった声かけを行った。人のために行動する喜びを味わった。 	<p>○</p>

<p>③ 基本的な生活習慣の定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本的な行動の仕方やきまりを身に付けさせるための取組」への保護者の肯定的な評価 90% ・生活目標の達成率 70% 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の活動や保護者・地域との連携を生かした「あいさつ運動」の実施、6年生を中心とした児童の自主的な取組の充実 ・児童による生活目標達成の自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生が自主的に行っていたあいさつ運動が全校に広まった。持ち回りで全校児童が実施できるよう、代表委員が提案した。 ・児童の生活目標達成の達成率 自分からあいさつする 85% ルールを守る 92% 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の視点からも児童のあいさつは86%、ルール・マナーが身に付いているは89%となった。 ・あいさつ運動の当番でなくても自主的に校門前に立ち、あいさつ運動に参加する児童が増えた。 	<p>○</p>
----------------------	--	--	---	--	----------

<p>重点的な取組事項－3</p>	<p>体力・運動能力の向上と健康の増進</p>
--------------------------	-------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>よりよい生活習慣の確立と運動の日常化、体力・運動能力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活習慣の確立は、下記①②の達成基準 ・体力・運動能力の向上は、体力調査の「体力合計点」が都平均以上を、男女別で6学年以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力運動能力調査にあたり、スポーツ推進委員を招き、投力向上の指導を受けた。投力調査は、男子1・4・5・6年、女子1・2・5・6年の計8学年が都平均を上回った。 ・体力・運動能力調査「体力合計点」の都平均以上は、男子1・2・4・5・6年、女子1・2・5・6年の計9学年（前年+5） 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・保護者には、「早起き」をすることで1日の生活リズムを整えていくよう働きかけている。 ・学校の体力向上の取組に対しては肯定的な評価をいただいたが、児童は進んで体力作りに取り組んでいると考える保護者は70%にとどまっている。今後も共育をめざす。 	<p>○</p>

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

<p>① 健康でよりよい生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うがい手洗い 90% (感染症防止) ・年間残菜率 2.5%以下 ・早起早寝 85% ・歯みがき 90% ・むし歯の保有者 10月の段階で5%以内 2月の段階で2%以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育指導の徹底 ・養護教諭・栄養職員の専門性を生かした指導の実施 ・「むし歯ゼロ運動」の推進(家庭への働きかけ、学校保健委員会などとの連携) 	<ul style="list-style-type: none"> ・うがい手洗い、ハンカチ携帯の習慣が身に付いている児童 80% ・早起早寝 66% ・歯みがき 94% ・むし歯の保有者 43% 保有者の割合は高くなった。校医が替わり、よりきめ細やかに診断くださったことと評価する。 ・残菜率 年間 2.3% ・肥満度による体型の分類 20%以上の児童数の減 4月 34名→1月 26名へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会の保健委員会が健康に関する集会活動を新たに2回実施し、脳の働きの重要性を全校に伝えた。また、学校保健委員会にて保護者代表に報告した。 ・「歯みがき週間」や「ハロー6チャンクラス」の機会を捉えて、歯科指導の充実を図るとともに、保健だよりや学校HPで保護者にさらなる啓発を図る。 ・校医よりスマホやゲームの弊害が話題となった。早起早寝が習慣付かないこと、視力低下の低年齢化に影響が出ている。 	<p>△</p>
<p>② 運動の日常化と体力・運動能力の向上(多様な運動の機会と体育授業の充実)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「体力向上への取組」に対する保護者の肯定的な評価 95% ・「体を動かすことが楽しい・好き」と感じている児童 90% ・体力・運動能力調査「体力合計点」が都平均以上を、男女別で6学年以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「体力向上推進計画」に基づく体力向上の継続的な取組 ・外遊びの励行 ・体力調査の結果をもとにした、「できる・伸びる・集う・精一杯動く」喜び楽しさを味わわせる授業改善 ・体力の向上と健康の保持増進を目指した「持久走・なわとび月間」への取組(「学校2020レガシー」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「体力向上への取組」保護者からの肯定的な評価 89%。 ・「体を動かすことが楽しい・好き」と感じている児童 87% ・「長なわ・短なわチャレンジ」に全員が参加した。「長なわチャレンジ」1学級が区の基準達成。 ・教員の実技研修(年2回) ・体力・運動能力調査における課題 3年生男女、4年生女子の体力合計点が都平均を下回った。運動種目別の課題の上体起こし(筋持久力)は6つの学年、反復横跳び(敏捷性)は7つの学年で都平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長なわ・短なわとびチャレンジ月間、持久走月間の設定を今後も継続する。 ・体力・運動能力調査から課題となった3学年については、日常の運動遊びから、調整力・巧緻性の向上に取り組んでいる。来年度の調査で成果を出す。今後も体力の維持・向上、バランスのとれた体づくりを目指していく。 	<p>○</p>

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

○重点的な取組事項1 学力アクションプランについて

2月実施の学力定着年度末確認調査の通過率は、学校全体で国語・算数2教科平均79.9%であった。2年生の算数科と5年生の国語科に課題がある。単元テストの結果の分析と合わせ、学習のつまずきをより明確にし、より個の課題に応じた指導に取り組んでいく。

【課題1】

2年生算数科の通過率は、75.3%である。①長さ・水のかさの単位換算、②箱の形の構成要素(面)、③文章と図や絵から、問題解決に必要な情報を選んで、理由を説明することが課題となる。②では、構成要素が身に付いていないこと、③においては問題の場面をイメージできてはいるものの、自分の考えを表現できないことが課題となる。

【対策1】

- ・日常的に水のかさに触れる経験が少ないため、学校生活の中での様々な体験的な活動や生活科や図画工作科などを通し、かさ意識させる。算数科では、単位換算の学習活動を多く取り入れる。
- ・普段の授業でも、ペアやグループで互いに説明し合う活動を設定し、自分の考えを言葉で表現する力の向上を図る。文章と図や絵から問題解決に必要な情報を選ぶ情報活用能力を育成するために、数量関係に着目できるようにキーワードとなる言葉を押さえ、問題の場面通りに絵図や数直線図、式に表すことができるように指導を重ねる。

習熟度別の学習指導を通して、より個別最適な学習が進められるよう、AIドリルなどのICTの効果的な活用も通して、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を身に付ける指導を継続する。

【課題2】

5年生国語科の通過率は、72.7%である。漢字の書き取りは、15.7%の正答率である。普段使用しない語句での表現や熟語の構成への理解度が低いことが課題となる。文学的な文章においては、行動や会話などを通して描かれている登場人物の気持ちの動きや性格を読み取ることが課題となる。

【対策2】

既習の漢字の復習に加え、熟語や漢字を活用した文例などを書くことを通して、語彙を増やしていく。また、AIドリルを活用し、熟語の読み方や意味、構成についても反復して取り組んでいく。文学的な文章においては、文章を読み取る際に、登場人物の様子や心情を表す語に注目させて読ませるなど、学習に応じ視点を明確にし、人物の性格を表す行動や会話などの根拠を見付ける活動を多く取り入れる。また、パワーアップタイムの時間には、文章量が少ない教材において同様の課題に取り組み、習熟を図る。

○重点的な取組事項2 豊かな心の育成

日常の学習や学校行事など学校生活の中での様々な活動を通し、自他のよさを見付け合い、認め合うことはもちろんのこと、幼稚園・保育園との交流、近隣の高齢者施設訪問を通して、「人の役に立つ」「人に必要とされる」喜びを味わわせ、自己肯定感や自己有用感を高める心の教育を行ってきた。また、地域学習、さつまいも体験、観劇・落語・生け花・投げ方・器械運動・音楽鑑賞(ピアノ・バイオリン・ドラム缶)教室など本物、本者に触れる体験などの機会を設けて、豊かな心を育ててきた。

いじめ・いじわる、登校しぶりについては、校内特別委員会の組織を生かして、学校全体でその早期発見、対応、解消を目指す。SCやSSWなどの外部機関を活用するとともに、地域の「いじめ対策プロジェクト」と連携し、その取組を推進していく。

○重点的な取組事項3 体力・運動能力の向上と健康の増進

体を動かすことが楽しい・好きと感じている児童、「体力向上への取組」に対する保護者の肯定的な評価は、目標を達成できた。年間通したなわとびへの取組、持久走月間など体育的活動を継続してきた。今後も「学校2020レガシー」を推進し、スポーツ志向の向上を図り、「精一杯動く・できる・分かる・工夫する・伸びる・競い合う・集う・応援する」などの楽しみ、喜びを味わえる体育学習を目指す。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度も「学力の定着と向上」「豊かな心の育成」「体力・運動能力の向上と健康の増進」を学校経営の柱として、知・徳・体のバランスのとれた子供を目指してまいりました。東和、蒲原という地域に生きる子供たち、そして学校です。地域に誇る学校でなく、地域が誇る学校となるよう、そして、目指す児童の姿を実現させるために、学校・家庭・地域の三位一体となった共育に努めてまいりました。コロナ禍が収束し、地域の取組や行事も開催されるようになり、その中では、子供たちは課外での活動のため、学校での姿とまた別の顔を見せ、成長しています。保護者・地域の皆様の温かく、力強いご支援を来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

令和6年の年明け、能登半島を大地震が襲いました。私達の街にもいつ自然災害が猛威を振るってもおかしくはありません。北三谷小避難所運営会議、訓練を4回行いました。保護者の皆様と共に児童の命と街を守り抜いていきたいと思えます。この震災に当たり、児童会が早速動き、募金活動につなげることができました。皆様のご協力もあり、12万円あまりを区民事務所を通じて、現地へ届けました。「困っている人のために何か行動したい。」と心ある行動のできる児童に感謝しております。

(3) その他(学校教育活動全般について)

保護者・地域の皆様に、子供たちの活動、活躍する姿をご覧いただく機会をできうる限り設けることができました。また、学校日より、学年日より、学級日より、保健・給食・図工日よりや配信メール、特にHPでの積極的な情報発信に努めてきました。ありがたいことに、学校評価のアンケートでは、「学校や児童の様子を参観したり、説明したりする機会を適切に設けている。」への肯定的な回答が90%をこえ、高い評価をいただくことができました。(昨年比+15%) また、転入児童の保護者の方からは、「北三谷小の学校HPを見て、学校の温かさを感じ、北三谷小に決めました。」と直接話を聞くことができました。開かれた学校づくり協議会においては、「北三谷小の実践は素晴らしいもの。もっと発信するため、保護者がいわゆるママ友の連絡網で学校のよさをアピールして児童数増につなげてほしい。」ともあった。

ICTの環境が整ったことにより、各種連絡をHPに掲載することで、ペーパーレス化を進めたり、学級と児童、家庭をグーグルのアプリ「classroom」でつないだりすることもできました。保護者アンケートでは、各種たよりやHPでの情報を「校外学習時のメール配信、校長ブログ、学級通信を楽しみにしています。」「HPで給食の記事を見て、毎日の手作りに感謝です。」などの意見をいただきました。引き続き、開かれた学校を目指してまいります。